

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	※説明内容は別紙資料のとおり。以下、質疑応答の部分を記載。 〈テーマ１：社会保障による支援〉 ・「保険料の統一」後に国保と後期高齢がどの程度上がるのか、住民目線では分かりにくい。 ・1人当たり給付費が目標を大きく上回り（総合計画の目標28.8万円に対し実績約39万円）、診療報酬・生活習慣病増加・治療内容の高度化など要因分析が必要では。 ・医療費「適正化・抑制」が具体的に何を指すか分かりづらく、単に保険料引き上げに帰着しないよう、予防や健診、生活習慣改善支援などの具体策が求められた。 ・コロナ禍での運動不足や生活習慣悪化の経験を踏まえ、運動機会の提供・健康イベントの充実を図っては。 〈テーマ２：住民自治、コミュニティ〉 ・地域への関心はあっても、具体的な活動参加につながらない住民（特に若年層・子育て世帯・転入者）が多く、情報の届け方・活動内容がライフスタイルに合っていない可能性がある。 ・自治会以外にボランティア団体・地域団体・NPO・サークル等の多様な活動は存在するが、相互連携・情報共有は限定的で、地域全体としての力が十分に活かされていない。 ・会計処理の分かりにくさ・決算の透明性欠如により信頼を失い、退会に至った経験が共有され、運営の透明性向上が重要。 ・行事（運動会・新年会等）が一部の人しか参加しないのに、自治会費・寄付金負担が重くなっているとの指摘。時代に合わない行事は見直し、役員負担と会費水準の両面から再検討すべきとの声があった。 ・町有施設のテーブル・椅子更新補助が上限・1/2補助であり、自治会負担が大きいとの指摘があり、「施設は町の資産である以上、基本的備品は一定周期で町負担100%による更新としてほしい」との要望が出された。 →公共施設計画を踏まえ検討課題として受け止めると回答。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	・高齢者向け講話等で青稲会館（集会施設）が遠く、参加が難しいケースがあり、「徒歩圏の身近な集会場所」が望ましいとの意見あり。 ・自治会行事に出にくい高齢者も参加しやすい、年代別の健康推進イベントや楽しく運動できる場（例：しゃきっとプラザのストレッチ教室・ボクササイズ等）の充実・周知を求める。 ・自治会の有無にかかわらず、町主催の場として定期的に高齢者向け健康教室を開催してほしいとの要望あり。 ・近接する自治会が別々に祭りを開催していることへの疑問が出され、「自治会未加入者も含めて町全体の盛り上がりにつながるよう、共同開催やオープンなイベントが望ましい」との意見あり。 ・地元の盆踊りを踊れない転入者・子ども向けに、「踊ろう会」など体験会を設け、盆踊り参加のハードルを下げるアイデアが提案された。 →行政主導ではなく、町民有志による開催の方が望ましいか。 ・年金生活者にとって年間4,800～5,000円程度の自治会費も負担感があり、会費未納者へのサービス提供の在り方（行政サービスは税未納者にも等しく提供されるが、自治会は会費に連動）をどう考えるかという問題提起。 ・災害時等に「自治会員でないから支援しない」とはなり得ず、平時から「誰もが支え合えるコミュニティづくり」が必要との意見。